

# スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2015年2月26日発行 第47号

## 第29回国際障害者年連続シンポジウム

# 障害のある人が、人として輝き生きるには？ ～地域自立生活がより豊かなものになるために～



基調講演: 廉田俊二  
メインストリーム協会代表



大橋グレース愛喜恵  
夢宙センタースタッフ  
(NHKバリバラ出演中)



小泉浩子  
JCIL 介護派遣管理者



今福義明  
アクセスジャパン代表

恋してますか？ 人から愛されて  
ますか？ 人生、楽しんでますか？  
自分の役割、はたしてますか？

◆日時: 2015年3月28日(土) 10:30-16:30 (10:00 開場)

◆会場: 京都テルサ東館3階B・C会議室 京都市南区東九条下殿田町70  
(地下鉄九条駅4番出口より西へ徒歩約5分・市バス九条車庫南へすぐ)

◆資料代: 500円 ◆要約筆記あります。

最近、障害のある人たちが、だんだんと、施設や親元でなく地域で暮らしやすくなってきました。介助の制度も整い、バリアフリーも進んできました。障害者を差別すべきでないという意識も少しずつ広がってきています。

けれども、障害があるとやっぱりできないことや困ったことがあります。自分たちが活躍できる場所は、まだまだありません。人間関係もそんなに広くありません。行けるお店も限られています。恋愛や結婚も、なかなかやりにくいです。まだまだ狭い世界で生きています。たとえ地域で自立生活をしていても、なんだか孤独でさみしい思いです。ごす人も多いです。

人として生まれたからには、愛し、愛され、この社会で自分の役割を果たして輝いて生きたい！ そういう自然な欲求はなかなか満たされません。

今回のシンポジウムは、そんな障害者たちの現状をふまえて、それでも、障害があってもいろんなことにチャレンジできること、おもしろい人生を送れること、そうした可能性をたくさん考えるために企画しました。この企画が、障害ある人たちのためだけでなく、さまざまな事情で生きづらさを感じている人たちのためのものにもなればと思います。

みなさま、お誘いあわせの上、ご参加ください！

◆主催: 「国際障害者年」連続シンポジウム運営・実行委員会

住所: 京都市南区東九条松田町28 メゾングラース京都十条101 日本自立生活センター (JCIL) 内  
電話 075-671-8484 FAX: 075-671-8418 メール: [jcil@cream.plala.or.jp](mailto:jcil@cream.plala.or.jp)

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当: 横川

ご意見・企画のアイデアなど大歓迎！ バックナンバーはホームページ↓で読むことができます。

TEL: 075-682-7950 E-mail: [jcil-kyoto@jcil.jp](mailto:jcil-kyoto@jcil.jp) URL: <http://www.jcil.jp/zygyosho/index.html>

# アメリカ・カリフォルニア研修報告 part1

2014年11月30日～12月7日の期間で、私たち5名(下林・渡邊・古川・上田・辻本)はアメリカ・カリフォルニア州のロサンゼルス、バークレー、サクラメントの3都市を訪れました。「車いすと仲間の会」が40周年、「日本自立生活センター」が30周年、「ワークス共同作業所」が20周年、「自立支援事業所」が10周年という節目の記念事業として企画されたものです。

今回の研修旅行の目的は、30年前の1984年に、故・長橋榮一元代表たちが、アメリカ・カリフォルニア州のバークレー自立生活センターと、CIL の名義使用の契約を交わしたことに遡ります。長橋氏が当時バークレー自立生活センターの所長だったエド・ロバーツ氏との出会いを通じ、京都でもアメリカと同じような自立生活センターの設立を決意しました。バークレーの自立生活センターにどのような影響を受け、どのような思いで、日本に自立生活センターをつくらうとしたのでしょうか。また、アメリカ・カリフォルニア州の現在の障害者の現状はどうなっているのかを知ることが、今回の私たちの旅の目的です。スキマタイムズでは数回に分けて5日間の研修報告をしていきます。

## 【ロサンゼルス】

### ●トランジションスクール

トランジションスクールは、18歳から22歳までの軽・中度の障害を持つ学生が、職業訓練の習得と、地域社会での自立生活の準備をする学校です。対象年齢の間なら、繰り返し学校に戻ることができるので、就職して上手くいかなかった場合は、再度学校に戻り、準備をし直すことができます。学校では様々なプログラムが準備されています。職業的なプログラムでは、オフィスでの仕事を目指すビジネスクラス、ビル・建物のメンテナンスやレストランでの調理・接客などを学



びます。同時に、自立生活に必要な調理クラスや日曜大工のクラスなど、自立生活のためのプログラムも豊富に準備されています。どのプログラムを中心に受講するかは、本人の希望とアセスメントを考慮して決定していくことになります。

トランジションスクールはこの地区に6か所あります。障害者の就業率が低下傾向にあるということを踏まえて、ここ2年で3カ所増えました。障害者が安全で健康に生活するというレベルから、更に職業的スキルを身につけて就業するという事に予算を使うことが決定されたからです。現在はトランジションスクールで学んでいる生徒の一般就業率は15%前後と低い状態です。就業ができない生徒は、地域社会の中でボランティア等の活動に参加して今後の就業の準備をしています。今後、トランジションスクールの増加により、地域社会で自立生活をしながら就業をしている障害者が増えるかどうか気になるところです。(古川)



### ●クライシスホーム

クライシスホームは重度の行動障害がある人が、3ヶ月から6か月程度利用して、落ち着いて生活をしていくための短期グループホームです。民間のNPO法人が、閑静な住宅街の一軒家を活用して運営しています。



基本的に、長期間ここに滞在することは想定されておらず、生活に改善が見られた場合は、通常のグループホームへ移行します。クライシスホームでは、生活の改善を図るために、行動障害の原因(生活環境に不満なのか、寂しいのか、人間関係が上手くいかないなど)が、どこからきているかを探り対処します。重度の行動障害をもつ利用者が生活するので、通常のグループホームでは禁止されている暖炉のプラスチックカバーを特別に付けたり、頭をぶつけても利用者が怪我をしないように壁に柔らかい素材を張ったり、薬品収納の棚には鍵をかけたりするなど、生活環境を

工夫したりしています。無理に行動を抑制・抑圧するのではなく、自然に行動障害を落ち着かせるための支援をスタッフが身に付けて対応しているのです。通常のグループホームへ移行する時は、環境の変化に適応するために、最初は半日だけとか、問題がなかった場合に次は週末だけというように、時間をかけて移行していきます。

日本では支援の不十分さによって施設に入所させられてしまうような人が、利用者に合わせた丁寧なサポートと生活の工夫で、生活する場所を制限されない暮らしを得ることができているのです。(古川)



### ●ウエストサイド自立生活センター (WCIL)

ウエストサイド自立生活センターは、ロサンゼルスにある自立生活センター (CIL) で、1976年に設立され、

カルフォニアでは2番目に古いCILです。WCILの特徴としては、「精神障害者」のスタッフが多いということがあげられます。カルフォニア州では、「精神病棟から地域ケアへ」という歴史的な流れを受けて、アメリカの他の州に比べて、精神障害者へのサービスが整っており、精神障害者の方が住みやすいということがその理由のひとつかもしれません。

WCILの活動の一つに「福祉・医療機器の推進」があげられます。福祉・医療機器を使うことにより、一層自立した生活がおけるといふ信念のもと活動されています。より先進的なテクノロジーを求めて、研究所とも連携をとり、様々な種類のテクノロジーを開発し、多くの人に体験してほしいと考えています。

その他には、他のCILと同様に、身体障害者(脳性麻痺者を除く)のヘルパーの紹介サービスを行っています。介助者の募集から、登録、聞き取り、ヘルパーリストの作成、リストの利用者(介助を使いたい当事者)への提供までがCILの仕事です。そして、当事者自身がそのリストをもとに、ヘルパーを探し、自らヘルパーを雇用していきます。(これは、アメリカ独特のサービスでIHSS=イン・ホーム・サポーター・サービスと言います。)日本ではサービス派遣事業所を通してヘルパーを依頼するというのが主流ですが、カルフォニアでは、身体障害者はヘルパーの直接雇用が基本になります。事業所に縛られない自由が許されるかわり、自己責任も負わなければならないというアメリカならではの姿勢を表しているようです。(辻本)



### ●マイケルズラーニングプレイス

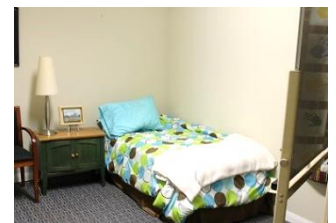
マイケルズラーニングプレイスは、知的障害、自閉症、ダウン症の障害をもつ「5歳～17歳までの学校に通う子ども」と「18歳～30歳までの大人」を対象としたスクールで、「自尊心・自立性を身につける機会を設ける場所」ともいえます。スクールの目的は「自立スキルを学ぶこと」につきまします。

スクールの活動内容は多岐にわたり、クッキング、ベッドメイキング、衣装の整理整頓、洗濯の練習、公共交通機関の使い方、宿泊体験、ライフスキルトレーニングの講習会など、様々な自立スキルを身につけるためのプログラムが用意されています。ここに通う当事者は、「リージョナルセンター」から通う許可を受けており、学費などは一切発生しません。(リージョナルセンターとは、日本の福祉事務所と支援センターが融合したようなアメリカ独自の機関です。)このスクールは、本人が希望し、リージョナルセンターが「自立スキルの獲得が必要」とみなした人が通えるということです。

障害のあるなし関係なく、だれもが「自立し、自尊心を持ち、地域社会にでる」ということが当たり前であり、それを口先だけではなく、実際にそのためのトレーニングの場をしっかりと設けているということが、日本とは大きな違いだと感じました。(辻本)

障

(次号につづく)



# 🌿 京都市バスの乗務員研修を行いました 🌿

2月3日、京都市交通局と JCIL による市バス乗務員研修が右京区総合庁舎で行われました。昨年7月にも交通局の職員を対象に研修を行いました。今回は実際にバスに乗る 34 名の新規採用乗務員が対象です。

講義は JCIL 所長の矢吹さんと大阪のバリアフリーリーダーの山名さんが担当しました。障害者による交通アクセスへの取り組みの歴史と京都市バスの問題点、車いすの形状の紹介、リフトバス導入運動と障害者のバス利用に関するビデオ『この道に行く』の鑑賞など 1 時間です。

実習も JCIL のメンバーが 3 手に分かれて担当しました。受講生には手動車いす・電動車いすで介助する側と介助される側の体験、実際に車いすでバスに乗降する、という三つの体験をしてもらいました。手動車いすの実習では、基本的な操作の他に、スロープ板を使い乗降の時に少しの傾斜がどれだけの障害になるか、バスの車体を傾けるニーリングの必要性を体感してもらいました。電動車いすの実習では、操作のほかにコミュニケーションの時間もとり、言語障害がある人に対しても、本人から話を聞くことが大事であることを伝えました。バス乗降では実際に外にバスを着けてもらって



乗務員が電動車いすでバスに乗り降りしました。ここでも車いすでバスに乗る際には、ニーリングや声かけ、安全確認など乗務員の接遇がどれだけ大事かを実感してもらえたかと思います。

実習の後、意見交換の時間を取りました。意見交換では、「車いすの固定について、固定する場所がはっきり識別できるようなマークを付

けられないか」「固定はフックを使わず、車止めを使うだけでもいいのか」など具体的な意見や質問が出たのが印象に残りました。

受講生の研修後のアンケートには、「声掛けの大事さ。声掛けが無くて車いすを押されることの怖さ、不快さを感じた」「介助者ではなく、障害者本人と話をすることが必要」「車いすで段差をこえたり、バスに乗り降りしたりするのがとても難しいことが分かった」、「研修生には每期このカリキュラムを受講させるべき」などの声があり、多くの乗務員が私たちの伝えたかったことを受け取ってくれたように思います。



研修を受けた 34 名の乗務員の方々は、今後数ヶ月の研修期間を経て現場で働きます。今回の研修で得たものを接遇で活かしてもらうためにも、車いす使用者も積

極的にバスに乗る必要があると思います。そうすることで接遇が向上し、良い接遇によって利用が増え、それがまた良い接遇につながる、そうした循環が生まれていくのだと思います。

今後も当事者による研修を継続し、車いす使用者をはじめとする移動に制約がある人たちが気兼ねなくバスを利用できる環境をつくっていきたいです。

(脇坂洋一)

★「パーフェクトバスを走らせる会」のブログでも、研修の様子が紹介されています。ぜひアクセスしてみてください！ →<http://perfectbus.blogspot.jp/>

## こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふう動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

★ヨガ：全身をうごかすヨガ  
日時：3月9日(月)18:15-19:30(OPEN18:00)  
場所：油小路事務所2F  
持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物  
参加費：無料

\*ヨガタイムはJCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。

